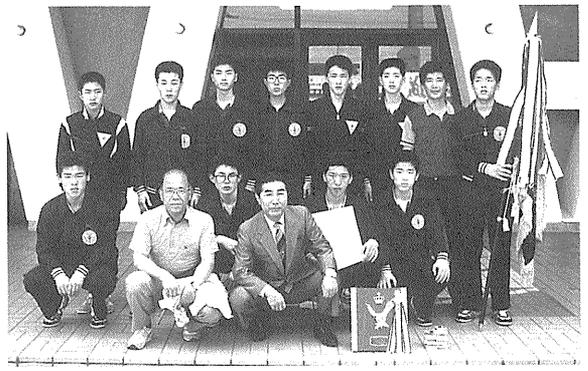




# 『名門県和商高卓球部の伝統を守る』



戦歴と実績を築かれたのは坂本富士雄先生、寺中公男先生であります。

平成4年には、全国インターハイ20回出場、快挙を全国高等学校体育連盟より表彰されました。公立高等学校では、全国初めてであり、県和商高卓球部の記念、テーイーの記、オ、B卓球部会長に鳥居信次氏が就任されました。

長い歴史の中で、クラブの低迷期もありました。ちょうどその頃、学校側のクラブ活動に対する意気込みもより盛んになり、故三宅秀彦校長は、「実業高校は卒業すれば即社会人になるのだから、勉学・部活動に一生懸命に力を入れる(思い)

出を作る)ところが高校生の人間形成を築くのだ。」といわれた言葉が今も心に残っております。

100周年を迎えるにあたり、卓球部は、諸先輩方への感謝の気持ち・敬意を忘れることなく、『継続は力なり』を合い言葉に、『100周年を機にさらに充実した新しい卓球部を作りあげます。諸先輩方のご指導を今後ともよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和52年3月から県立和歌山商業高等学校卓球部の専任コーチ、監督として現在に至っております。

インターハイ出場の思い出については、昭和60年の石川インターハイに於いて、対桜丘(愛知)戦が印象に残っています。桜丘は昭和59年に全国選抜大会で優勝しているチームでした。試合展開は、エース同士の対戦で、奥池正彦(県和商)選手は東海地区No.1。奥池は近畿No.2で、両者一歩も譲らず一進一退の好ゲームとなり、最後にマッチポイントを2回逃がした奥池が、53分間の接戦の末に逆転で破れ、2時間38分の大接戦を展開した。本校は敗れはしたものの、全力を尽くして戦った選手の頑張り、私の脳裏に深く焼きついた大会となりました。

平成4年、宮崎インターハイでは本校の通算20回出場の表彰をして頂きました。台風の影響で電車・フェリーが欠航する中、宮崎へ到着する迄約25時間掛かり、前委員長の竹本先生が先導され、和歌山県のため、表彰式に間に合わそうと懸命になつて頂き、諸先輩達の汗と涙にまみれた表彰状を代表として持ち帰る事が出来た事も思い出されます。

私の28年間の様々な思い出が、これからの原動力として今後も驕らず・街わず、更なる努力を重ね、邁進する所存であります。

(100周年記念誌掲載)

卓球部監督 山本 光義

## 日本伝統音楽を 守る誇りもち

### 邦楽部



本校邦楽部は、昭和四十年に同好会「むらさき会」として発足し、昭和四十三年に「邦楽部」としてクラブ昇格を認められ、現在に至っております。

平成十七年二月現在、部員数は十二名(一、二年)

本校邦楽部は、昭和四十年に同好会「むらさき会」として発足し、昭和四十三年に「邦楽部」としてクラブ昇格を認められ、現在に至っております。

また、毎週火曜日には、和歌山県邦楽界重鎮の菊数先生にご指導に来ていただいております。

主な活動は、四月の新入生歓迎会、十月の文化祭での演奏、九月の高等学校邦楽連盟(略称「高邦連」)の定期演奏会出演です。

高邦連の定期演奏会は、コ

生で、月曜日から金曜日まで毎日、和商会館2階をお借りして練習をしています。

また、毎週火曜日には、和歌山県邦楽界重鎮の菊数先生にご指導に来ていただいております。

主な活動は、四月の新入生歓迎会、十月の文化祭での演奏、九月の高等学校邦楽連盟(略称「高邦連」)の定期演奏会出演です。

高邦連の定期演奏会は、コ

ンクル形式で行われ、入賞を目指して夏休みもほとんど毎日練習し、昨年度は初の五位入賞を果たしました。

「邦楽」。それは日本人の心のふるさとです。西洋的な物質文明に流され、精神的なもの、伝統文化を見失いがちな今こそ、私達は日本の伝統音楽を守り続けることに誇りを持ち、ますます頑張っていきたいと思

# 栄えある伝統を引き継ぐ 盛大に創立100周年記念式典



旧制校歌を歌う諸先輩



記念講演の竹中平蔵大臣



寺山恵美子さん(旧姓宮本)の講演



新制校歌たからかに



記念式典会場の受付風景



記念展示場の一部(相撲部)



記念式典会場の風景

県立和歌山商業高等学校創立100周年記念式典